



かわらばん

良城小 URL: <http://www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ryojo-e/>

良城小学校
学校だより 7月号
児童数 804名
令和元年 6月 26日

「ながら見守り」で声のかけあいを

校長 増野 淳一

先月、子供の安全を脅かす事件・事故が続けて起きました。大津市では散策中の園児の列に車が突っ込み、川崎市では通学バスを待っていた児童や保護者が無差別に殺傷されました。

これらの事件・事故は、平成13年6月に大阪の池田小学校で発生した無差別殺傷事件を思い起こさせます。この事件では8人もの児童が亡くなり、その後、全国的に子供の登下校を見守る気運が高まり、各地で見守り隊が結成されました。

この事件から18年が経過した今、全国各地の見守り活動は大きな危機に直面しています。次の世代の参加が少ないのです。

当時、65歳で参加された方は、今年は83歳を迎えられます。次の世代の方々の参加が少なく、世代交代ができていないのです。ご高齢となった方々は、交代したくても、やめると見守りをする者がいなくなってしまうために、無理をしながら継続されている状況です。

しかし、見守り隊の世代交代はなかなか進まないのも現状です。そのため、もう何年かしたら、おそらく見守りをしてくださる方々の数が激減してしまうことでしょう。吉敷地域も例外ではないと思います。



では、どうすればよいのでしょうか。私は、一昨年度の良城かわらばん3月号で呼びかけた「ながら見守り」が最も現実的ではないかと考えますので、先月の事件・事故を受け、再度、お願いをさせていただきます。

「ながら見守り」とは、散歩をしながら、買い物をしながら、庭先で水まきをしながら、草引きをしながら、体操をしながら、下校時なら子供達に「お帰り。」「気をつけてね。」「今日は学校は楽しかった?」と言葉をかけていただく見守りのことです。朝の登校時も可能だと思います。

また、この「ながら見守り」は、高齢者の方々はもとより、全ての地域の方々があらためて顔見知りとなり、地域づくりのスローガン『みんなで支え合う 笑顔あふれるふれあいのまち 吉敷』を掲げる吉敷だからこそそのふれあい活動としてもふさわしいのではないのでしょうか。

今年、学校では、「地域の方々にあたたかい挨拶をしよう」という目標を設定しました。先週は児童の代表委員会で、その取り組み方を話し合いました。今後、児童からも、黄色や青のユニフォームを着た見守り活動の方々だけでなく、地域で出会った方々にも挨拶ができるように取り組んでいきます。

前回呼びかけをしてから、ながら見守りをしてくださる姿が増えていると感じています。保護者の皆さま、地域の皆さま、是非、ながら見守りの趣旨にあらためてご賛同いただき、登下校時には多くの大人が家の周りに出て子供達に、またご近所同士で、あたたかい声をかけ合ってくださいませよう、どうぞよろしくお願いたします。